

綴りの

輪

(59)

を作りたいと言ふ夢を描き、飯田図書館に1000冊以上の図書を購入し、ついに1970(昭和45)年に亡くなられたが、自らの体を自棄会に献体されておられる年葬儀が営まれ、その一途な志を慕い三回忌に、1972(昭和47)年松川町生田地区に表に多くの方々の寄付により芳重地蔵が建立された。

1974(昭和49)年には「信州白樺」14号は追悼特集を組んでいる。1976(昭和51)年には下沢勝井、松下拓岡氏執筆になる『人間 宮沢芳重』が綿密な調査に基づいて出版されている。

飯田大学の夢を描いた 宮沢芳重と小塩元次の交流

(1896-1997) (1897-1992)

小塩 立 吉

「承知の方も多いと思いますが、旧生田村で1898(明治31)年に生まれた宮沢芳重氏は、勉学の機会に恵まれず苦学を決意し上京、色々の仕事に携わりつつ勉強を続け、後半はいわゆるニコヨン生活を送り、生活費を極度に切り詰め、節約してお金を飯田高校に天体望遠鏡を設置すべく送り続けた。

また、飯田に国立でも私立でもない郷立の大学

1974(昭和49)年中央図書館には、宮沢芳重文庫は勿論、これらの図書ならびに新聞雑誌記事に至るまでの諸資料が所蔵されている。

一方、叔父小塩元次(1897-1992)は、1897(明治30)年の生まれと同世代であ

一方、飯田図書館宮沢文庫、下伊那教育機構連盟が発行した「学園飯田」1973(昭和48)年には追悼集『素濁』が編集出版され表に多数の関係者が寄稿、執筆しております。

1974(昭和49)年中央図書館には、宮沢芳重文庫は勿論、これらの図書ならびに新聞雑誌記事に至るまでの諸資料が所蔵されている。

一方、叔父小塩元次(1897-1992)は、1897(明治30)年の生まれと同世代であ

1974(昭和49)年中央図書館には、宮沢芳重文庫は勿論、これらの図書ならびに新聞雑誌記事に至るまでの諸資料が所蔵されている。

1974(昭和49)年中央図書館には、宮沢芳重文庫は勿論、これらの図書ならびに新聞雑誌記事に至るまでの諸資料が所蔵されている。

「承知の方も多いと思いますが、旧生田村で1898(明治31)年に生まれた宮沢芳重氏は、勉学の機会に恵まれず苦学を決意し上京、色々の仕事に携わりつつ勉強を続け、後半はいわゆるニコヨン生活を送り、生活費を極度に切り詰め、節約してお金を飯田高校に天体望遠鏡を設置すべく送り続けた。

また、飯田に国立でも私立でもない郷立の大学

1974(昭和49)年中央図書館には、宮沢芳重文庫は勿論、これらの図書ならびに新聞雑誌記事に至るまでの諸資料が所蔵されている。

一方、叔父小塩元次(1897-1992)は、1897(明治30)年の生まれと同世代であ

1974(昭和49)年中央図書館には、宮沢芳重文庫は勿論、これらの図書ならびに新聞雑誌記事に至るまでの諸資料が所蔵されている。

より小塩元次記念資料館が建てられており、ここに宮沢芳重氏との交流記録が保存されている。これらはその都度寄稿したり、生前上記著書執筆の際に提供されている。

叔父から「宮沢芳重さまは偉いもんだぞ！天体望遠鏡を贈ろうとニコヨンで待たお金をみーんな飯田高松高校に贈った」と聞いたことがあった。それが人々を動かした。飯田高校に天体望遠鏡トムができてと知ったのは、私が就職し東京に住むことになり挨拶に武蔵野の家を訪れた時だったと思う。

1941(昭和16)年10月30日大東亜戦争開戦直前、早稲田大学学生寮

酒運頭と同僚であった横山鹿之亮氏を通して自洋舎での仕事を紹介している。国本利子さんが「素濁」に1941(昭和16)年頃として仕事の合間にも難しい本を読む特異な氏の姿を書いておられる。

終戦直後1945(昭和20)年11月28日道義新生会を再会したのを皮切りに、自宅訪問は1947(昭和22)年から続く。1970(昭和45)年の正月まで13回は家に及んでいる。最初は昼間に見えられたが、とよ子が「東京の正月は朝の食事に困りましょう、起きたら直ぐいらっしやまししょう。」と手許が不自由で柔らかなものを装って上げると何でも上がったのである。それ以来宮沢氏は元次邸の正月恒例の客となった。律儀に禁酒同盟の会費と世界連邦の会費をとよ子に渡し、食事を共にし、元次と大学構想の話を始めると楽しんでいたと、手記を残している。

①人間の目的は何ぞ(仮試案)

②真理探究 平和、世界連邦の相關

③総合飯田大学創建の理念と必然性

④青少年純潔育成の原理

◇ *ごしお たつきち

1936(昭和11)年生まれ。飯田市出身。一般財団法人日本禁酒同盟事務局長。東京都日野市在住。